■田上菊舎(尼) 俳人。琴士として榮譽をきわめ、当時の女性として比類のない旅行家で、華やかで多彩な一生を送った。

たがみきくしゃ

薩摩藩工事・1753＝ 長門国豊浦郡田耕村で、長府藩側用人で医者の上田由永の長女に生まれる。母は豊田たか。名は道。

大岡忠光没・1760＝

・・・・・・・・・・1762＝ 9歳：

蘭金銀錦給始1765＝12歳：寵愛してくれていた祖父が死去し、
忠臣蔵大当り1766＝13歳：続いて、可愛がっていた弟が痘瘡で夭折するという精神的衝撃を受け、

久留米藩工事1768＝15歳：同村の豪農次男村田利之助と結婚し、

御蔭参流行・1771＝18歳：

田沼意次老中1772＝19歳：

苦勞しながらも仲睦まじく暮らしていたが、

雨月物語刊・1776＝23歳：_夫が急死して寡婦となり、子がなかったので、

・・・・・・・・・・1777＝24歳：養子に村田家を継がせ、実家に戻り、

ワッ船蝦夷来 1778＝25歳：長府の只山から“菊車”の号を授かる。田上家に復籍。初号菊車とした記念集「改称賀章集」稿、
なお、喪に服して慎ましく暮らし、再婚の話も断って、_自ら生きて行く道として俳諧の研鑽に励み、

・・・・・・・・・・1780＝27歳：喪が明けるとともに、

・・・・・・・・・・1781＝28歳：*萩の清光寺開心院について剃髪し、俳諧行脚の旅に出、京都本願寺の報恩講に参加後、

天明大飢饉始1782＝29歳：_萩の宗匠に紹介された美濃の朝暮園傘狂に入門。主に美濃派の俳人をたどり、“奥の細道”を逆コースで辿
って江戸に出、野村白寿の斡旋で俳席に出入り、「春の恵」「笈の塵」「夜長時」稿、

蘭学階梯・・1783＝30歳：_一字庵の号を許され、菊車を菊舎と改め、江戸での俳諧活動を収録した「初日の出」「師の前に」稿、

意知刺殺事件1784＝31歳：この年、古今の女性俳人六名-智月・園女・秋色・素園(千代尼)・哥川・田女の句に古友尼が脇句を付けた
歌仙六巻と古友の独吟歌仙を収録した泰里編「まつがさね」が刊行される。_帰途につき、大垣藩家老伊藤宗
長に茶道を学ぶなどして、帰郷。江戸・美濃での吟詠を収録した「初手水」「初手水続篇」「旅情集」稿。

田沼意次失脚1786＝33歳：_九州諸国を歴遊、多くの俳人と交流、一人長崎で越年。「つくしの旅二」「九州行」稿。

寛政改革始・1787＝34歳：九州行脚続けて帰郷。「一声行脚」稿。美濃へ向かい、病気になる師傘狂を見舞い看護、

・・・・・・・・・・1788＝35歳：美濃滞在記「ふたゝび杖」稿。

初の横綱・・1789＝36歳：

異学の禁・・1790＝37歳：_芭蕉百年忌に参加するため上京、紀行文「首途」稿。伏見に向かい、宇治の万福寺に立寄って異文化体験し
、代表句‘山門を出れば日本ぞ茶摘うた’を得、吉野西行庵を訪ねて京に戻る。「吉野行饒吟」稿。

松平定信引退1793＝40歳：_美濃に傘狂を見舞い、江戸を再訪、菊池東元に七弦琴を学ぶ。「美濃・信濃行」稿。傘狂死去の報に、

ワッガ 正月・1794＝41歳：_琴を抱いて江戸を立ち、道々琴を弾じては句を詠み、画を描きつつ帰郷した。追善集「追善弔古々路」。
書・画・茶道・琴曲の奥義を修め、詩の心得もあり、

プロトノ来航・1796＝43歳：_再び九州に遊び、長崎で清人蔣菱舟・費晴湖と唱酬などして越年、

昌平饗始・・1797＝44歳：「九国再遊墨摺山二」稿。

古事記伝・・1798＝45歳：_九州の旅から帰郷し、佐賀滞在記「閑集草」稿。

膝栗毛始・・1802＝49歳：*若いが見る文化人だった長府藩主毛利元義から前田の別荘に呼び出され、絵師度会文流斎と風景を絵
と文で表すよう命じられ、合作「前田二十勝」を仕上げられて褒められる。

青洲麻酔手術1805＝52歳：長府藩主毛利元義から鶴の羽で織った超高級羽織を下賜される。

1806＝53歳：「追善弔古々路」刊行。

ワッ船狼藉・1807＝54歳：_父が持病の喘息悪化、帰郷して看病するも空しく死去。

フェトノ号事件 1808＝55歳：_下関の本陣伊藤家の{空月庵}を借り、20日間に及ぶ茶会を催し、「空月庵むだ袋」稿、

間宮海峡発見1809＝56歳：一時帰郷。

コロブノ拿捕 1811＝58歳：萩・長府での俳諧記録「鶯の舎」稿。

高田屋拿捕・1812＝59歳：「都の不二」稿。*それまでの人生に区切りをつけるべく、還暦自祝集「手折菊」4巻を刊行。

浮世床・・1813＝60歳：「手折菊」を京の永観堂に献呈して、帰郷。「都の玉ぎぬ」稿。

・・・・・・・・・・1815＝62歳：なお、行脚を続け、再度の京坂遊行文「都のしらべ」稿。

伊能測量終・1816＝63歳：

水野忠成老中1818＝65歳：

_法隆寺の太子尊像の前で寺宝開元の琴を演奏するなど、琴士としての榮譽もきわめ、

伊能図完成・1821＝68歳：藩主毛利元義との両吟含む「かゞみもち」稿。

シボノ来日・1823＝70歳：「星の硯」「実の秋」稿。

シボノ鳴滝塾1824＝71歳：長寿自祝集「鳳尾蕉」後、帰郷し、'故郷や名も思い出す草の花'。婚家の村田義兵衛(桃葉)に一字庵を譲る。
帰郷の折の俳諧紀行「山めぐり集」稿、「月の笠」稿。

異国船打払令1825＝72歳：句画帳「亀山詣」、句集「山田遊行青田のながめ」、

・・・・・・・・・・1826＝73歳：*当時の女性として比類のない旅行家で、華やかで多彩な一生を送って、長府の実家で、没した。